

【令和6年度版】 教育DX推進（「徳島ICT活用モデル」の活用）に係る各校の方策・取組（参考事例）

① ICTの活用推進

1	普段から教師も児童生徒も、ICT 機器を使う機会を増やす。授業中の使用頻度を向上させ、タブレット端末の普段使いにつなげていく。
2	管理職や研修主任、情報主任等が情報を共有し、校内に発信していく。
3	12月のセルフチェック時に、それぞれが「A」以上になることを意識して、普段から取り組んでいく。
4	毎週〇曜日は、すべての学級でタブレットを活用した授業をすると決めて取り組んだ。
5	学校内でロールモデルとなる教員を増やししながら、研修等で取り組みを共有し、個々の活用促進につなげる。
6	ペーパーレス化を職員室内で進め、保護者への理解についても協力をお願いしている。（先生方がタブレットを日常的に触るようになる。）
7	欠席連絡やアンケートなどをデジタル化し、情報を全体で把握できるようにしている。
8	校内に教育 DX の推進を実現するための組織を整える。校内の GIGA 推進チームを中心に研修を進める。
9	校内研修に計画的にICT研修を組み込み、実践していく。
10	タブレットを持ち帰る体制づくりを行う。毎日、タブレットの持ち帰りをしている。
11	他校の具体的な取組を紹介する。
12	管理職がリーダーシップを発揮して、全教職員が ICT を活用できるように取り組んでいる。
13	管理職から「徳島 ICT 活用モデル（SAMR モデル）」について、積極的に周知・啓発を行う。
14	「令和の日本型学校教育（「個別最適な学び」と「協働的な学び」）」について、理解促進を通じた ICT 活用を推進する。
15	お互いの授業を気軽に見せ合えるようにしているので、教師や児童生徒がどんな場面でどのように端末を使用しているかを知ることができる。
16	授業者が果敢に ICT 活用に挑戦することができるよう、学校をあげて教育 DX に取り組んでいく。
17	先進校の取組について、その具体を知り、自校の環境でできることから実践する。
18	研究授業では、それぞれが SAMR のIレベル上をねらった授業実践に挑戦する。
19	県の事業（GIGA スクール構想サポート事業等）を活用したり、外部講師を研修に招いたりして、ICT 研修を活性化させる。
20	職員室の行事予定を、手書きからディスプレイ表示へ変更した。
21	児童生徒がタブレットを使いやすいように、学校全体で使い方の共通理解やルールづくりを行うようにしている。教科を横断して、共通の学習スタイルを作っている。
22	普段の些細なアンケートやレポートなどでも、タブレットの利用頻度を増やす。
23	「まずは使ってみる」ことを推奨している。

24	研究授業を実施する際には、端末の活用についても研究の内容に組み込んでいる。
25	ICT ありきの授業の再構築に取り組んでいる。タブレットを活用した授業づくりを前提に、どの学級も取り組んでいる。
26	登校時からタブレットを机に出し、ほぼ毎時間、授業中にタブレット活用する。
27	授業参観日等にもタブレットをできるだけ活用するようにしており、DX 推進について家庭の理解・協力を得られるようにしている。
28	遠隔合同学習やプログラミング、デジタルポートフォリオ、生成AIの活用を柱とした新しい時代の新しい学びのあり方を模索している。
29	A 段階を満たす研究授業を実施し、ロールモデルを増やす。
30	町全体で共通理解をして、ICT の活用を進めている。
31	研修等の情報をクラウドで共有するようにしている。
32	学年構成等において、ベテランと若手・中堅の協力体制をできるだけ組んでいる。
33	学校だよりにて、GIGA 関連の内容を家庭に発信している。
34	タブレット用のバッグを机の横に準備し、すぐに授業で使えるようにしている。
35	授業研究会では、デジタル上で意見を発信・共有し、記録も蓄積するようにしている。
36	タブレットを活用して、教職員間だけでなく、保護者とも生徒の学習状況等の情報を共有している。

② ICTの効果的活用

1	教師も児童生徒も、実際にタブレットを使用する中で、効果的な活用方法を新たに発見したり、気付いたりすることがある。そういうことを、研修等で広げていく。
2	調べ学習だけでなく、思考するための道具として使えるようにしたり、授業で学び合うための使い方をしたりする。
3	域内（市町村）の小・中学校情報教育担当者の研修の場を設定し、端末の効果的な活用や ICT を校務にどのように活用しているかなどについて情報交換を図る。
4	可視化された個々の意見や考えを用いた話し合いをしたり、全員で意見を共有したりできる授業に改善していく。
5	近隣の先進校へ先生方が視察に行かせてもらい、各学年でどう使っているか勉強させてもらった。
6	リモート英会話に利用している。海外の学生などとオンラインでつないでいる。
7	毎日の心の健康チェックに利用している。
8	今の端末環境（アプリ・クラウドサービス等）でできることを、教員同士で共有するようにしている。
9	朝の学習や家庭学習、長期休暇などに AI ドリルを活用するようにしている。
10	校内研修では、タブレット上でのホワイトボード機能を活用して協議したり、研修後はデジタルアンケートで振り返りや気付きの整理を行ったりしている。
11	学習に対する意欲が低い児童生徒には、タブレット等を用いて、興味・関心を引き出す工夫をしている。

12	授業の効率化のため、プレゼンソフトなどで事前に教師が作成した資料を活用する授業展開を行っている。
13	少人数学級なので、発表や意見交換などを充実させるために、教室外の児童生徒等とデジタルでつないで学習を進めている。
14	複式学級において、間接指導に ICT を活用している。
15	他校との協働学習において活用している。
16	長期欠席者の学習保障のために、オンライン学習を進め、学びの保障に努めている。別室登校の児童生徒に対して、授業を配信している。
17	小学校低学年では、手書き入力や付箋機能を上手く活用している。写真や手書き機能を活用し、小学校1年生からタブレットを使っている。
18	体系的な思考ツールの活用を目指している。
19	小規模校同士、オンラインでつながっている。他校とメタバース等で交流している。
20	タブレットで意見などを共有するだけでなく、それを元に自分の考えを伝えたり表現したりすることを重視している。
21	Forms でリアルタイムに集計したデータ等を活かして、授業を展開している。
22	毎週〇曜日、〇〇教科担当教員全員で ICT を活用した授業の研究を行っている。
23	普段から SAMR の「A」を意識した授業をしている。
24	映像や画像を効果的に活用することで、学習内容の理解を促している。
25	授業で使うアプリと同じアプリを校内研修で使うことにより、効果的な活用場面についてイメージしやすいようにしている。
26	ICT を活用することにより、個々の児童生徒に対して、それぞれの特性に応じた合理的配慮ができるようにしている。
27	音楽や絵画の学習活動に、生成 AI を活用している。

③ 教育データの利活用

1	タブレットで学習の記録を残し、そのデータを活用することと、共有機能を生かすことを中心に実践をしている。
2	児童生徒がそれぞれの端末を活用して表現したものを、他者参照したり、相互評価したりするような授業展開を取り入れる。
3	録画機能を使って学習活動を記録し、それをもとに話し合い・考察する授業をしている。
4	授業のデジタルノートなど、作成したデータを教員同士で共有したり、どのように活用したか教え合ったりしている。
5	実技等を撮影することで、児童生徒が自分で客観的に振り返りを行えるようにし、次時の課題に主体的に取り組めるようにしている。
6	学習データや生活データを活用し、保護者面談にて課題等を共有している。
7	学習の記録などをデジタル化することで、家庭での復習や振り返りも容易になるよう工夫している。

④ 情報活用能力の育成

1	縦割り班活動を活用し、上学年が下学年にタブレットの使い方を教えるなど、児童生徒相互の教え合いをする。
2	授業での ICT 活用に即した情報モラル教育を行っている。外部講師を招いて、情報モラルの学習会を実施している。
3	プレゼンテーションソフトを利用して、職場体験学習のまとめと発表会を行っている。
4	朝の学習でタイピングに取り組んでいる。
5	タブレットを持ち帰らせて、家でも情報活用能力の育成につながる課題をさせている。(プレゼン作成等)
6	朝の SHR の連絡を端末で配信することで常にタブレットを利用する状況を作り、タブレットの活用について生徒自身が能動的に考えるきっかけとしている。

⑤ 個別最適な学び

1	ICT 活用だけではなく、授業の在り方についての再構築も図っていく。
2	タブレット端末の持ち帰りを増やし、子供たちが文具の一部として自らの考えで活用できる機会をつくっている。
3	児童生徒の実態に応じて、反転学習や学習方法を選択できる授業づくりに取り組んでいる。
4	全学級で、一人一台端末の活用による自己調整学習を取り入れた研究授業を行っている。
5	朝の学習や授業の隙間時間などに、学校全体で AI ドリルを活用している。
6	Web ドリルや解説動画を活用して、自分のペースで学び直しができるようにしている。

⑥ デジタル人材の育成

1	教員同士がお互いに学ぶ場を作る。(校内研修等)
2	ICT が得意な先生や外部の講師から、学ぶ機会を定期的に設ける。
3	校内研修だけではなく、ミニ研修や終礼の議題が少ない時、メンターなども活用する。
4	研修等でインプットするだけではなく、実際に ICT 機器を使ってアウトプットすることを大切にしている。
5	スローガンを決めて ICT 活用研修を行い、全教職員のスキルアップやノウハウの共有を図っている。
6	クラウド型アプリを校務で使用するようにし、教職員が校務を通してクラウドサービスに慣れ、教育活動の中で運用することができるようにする。
7	ICT 機器が苦手な教員には負担感も大きいので、サポート体制を充実するようにしている。
8	ワークショップ型の研修を小中教職員合同で実施している。

9	生成 AI の活用方法などについて研修を行ったり、教員間で実践例などの情報共有をしたりしている。
10	教員のスキルアップのため、県内外の研修会等に参加できるようにしている。希望研修の受講を勧めている。

⑦ ICT支援員との連携

1	ICT 支援員、ICT 教育支援員にも手を借りて、ICT 機器のトラブル対応や授業のサポートをしていただく。
2	郡市全体で、ICT 支援員による研修を実施している。

※ 令和6年度学校訪問及び学校訪問未実施校へのWebヒアリングより